
短歌ごっこ'10.文月

逸見

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短歌ごっこ・10・文月

【コード】

N9000M

【作者名】

逸見

【あらすじ】

日常を詠んでいます

短歌の形式だけど、「短歌」と言い切ってしまうのは、なんかおこがましい

そんな訳で「短歌ごっこ」です

順番に
消去されてく
メールとか
履歴のように
消えて行くなら

においから
ふと蘇る
景色あり
色や言葉や
空気までも

変わり行く
ものと変わらぬ
ものたちに
囲まれる日々
程よいバランス

水たまり
蹴散らし走る
車から
跳ねた水の
行き先見えず

自分でも
分からぬ中身
からっぽか
モヤモヤ気分で
いっぱいなのか

どうやって
形にすれば
いいのだろ
文字にならない
気持ちを文字に

見据えつつ
怯えてもいる
見えぬもの
望んでもいる
混沌と

傘なんか
役に立たない
程の雨
テレビの音も
かき消すほどに

キミだけが

特別だった
目はいつも
キミだけを追う
誰より早く

ちっばけな
取るに足らない
思いだろう
ティツシュー一枚
程度の重み

似てるけど
今日も昨日と
違う空
風に吹かれて
雲は流れて

鳥かごの
小さい空間
君は今
ここに居たいか
空に出たいか

手に当たる
水の冷たさ
楽しんで

食器洗いが
避暑になる夏

灰色の
見飽きてしまった
梅雨空に
よく似た色の
思いが重い

分かち合う
喜び知らぬ
人は皆
豊かでありつつ
豊かでないね

きまぐれに
強くふる雨
雨音を
聞いて決める
コンビニタイム

何しよう
迷った拳げ句
決めかねて
急な休みを
無駄使いする

広がるは
梅雨の晴れ間の
青い空
白の眩しさ
目に残る朝

眼差しの
向いてる先を
辿り行き
確かめて吐く
長大息

じゅわじゅわと
じわじわだとも
聞こえる
蝉は満身
濁点で鳴く

生い茂る
数多の命は
みな空に
光の場所向け
伸びて行く行く

ヒーローは
意外に孤独
アンパンマン
友達は愛
勇気だけとは

隠れ家の
ような居場所に
吐いている
詩や短歌にも
なれぬつばやき

CDや
ケータイで聴く
お気に入り
甘いだけでは
ないラブソング

夜の中
宝石のような
光縫い
瀬戸大橋抜け
進み行くバス

懐かしい
地名を順に

通り過ぎ
段々近づく
家と日常

干からびて
しまいそうな
溶けるような
焼けるような
暑さの3時

深呼吸する
時間と場所で
文字にする
日記のような
三十一文字

納得を
したり発見
しながらも
形になりゆく
不確かなもの

凄まじい
音を立てて
吹き荒れて
ただ凧の日を

待つ熱帯夜

とろとろと

うつらうつらと

まどろんだ

どこにも行かない

一人の休日

初めての

夏でも初の

暑さでも

無いのにたじろぐ

猛暑の文月

立ち向かい

乗り越えようと

思わない

ただただ耐えて

涼願う日々

どしゃ降りの

雨音涼しげ

BGMに

体感温度

低くするよう

風さえも
暑さでバテて
しまったか
熱気のコもる
部屋でため息

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9000m/>

短歌ごっこ'10.文月

2011年10月7日13時42分発行